厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患等政策研究事業(難治性疾患政策研究事業)
分担研究報告書

圧迫性頚髄症手術前後の転倒による症状悪化に関する多施設前向き研究

研究分担者　氏名　木村　敦、竹下　克志
所属機関名　自治医科大学整形外科

研究要旨　OPLL 症例を含む頚髄症患者における術前後の転倒と、それに伴う自覚症状悪化の発生頻度に関して、後ろ向き研究に引き続いて前向き研究を開始した。頚髄症に対する手術を予定している患者に自記式の調査票を配布し、術前から術後 1 年までの転倒の詳細と QOL の推移を調査している。術後１年時にデータを収集し、OPLL 患者の転倒とそれに伴う症状悪化の頻度を明らかにし、これらの危険因子についても解析を行う予定である。

A．研究目的

頚髄症患者における術前後の転倒と、それに伴う自覚症状悪化の発生頻度を、前向き調査によってより正確に明らかにすること。

B．研究方法

まず本学において研究計画に対する倫理委員会の承認を得て、計画書と調査用紙を協力施設に送付した。各施設における倫理委員会の承認後に、同意が得られた患者に調査票を配布し、術前から術後 1 年の期間でデータを収集している。平成 29 年 5 月末に登録症例数の途中集計を行い、予想されるサンプル数を明らかにしたい。

C．研究結果

本学では、これまでに 32 症例の登録患者があり、予定通り術後 1 年までの観察を継続している。

D．考察、

現在進行中の前向き調査では、転倒とそれに伴う症状悪化の頻度に関して、より正確なデータが得られる見込みである。また、後ろ向き研究では OPLL 患者が頚椎症性脊髄症患者に比較して有意に転倒が多い理由に関して十分な解析ができなかったが、今回の前向きの研究では、より詳細な分析が可能となる見込みである。さらに症状悪化の危険因子と予防策に関しても分析を行いたい。

E．結論

頚髄症手術前後の転倒による症状悪化に関する前向き研究を、研究計画に従って実施している。

F．健康危険情報

総括研究報告書にまとめて記載

G．研究発表

1.論文発表

Fall-related Deterioration of Subjective Symptoms in Patients with Cervical Myelopathy. Kimura A, Seichi A, Takeshita K, Inoue H, Kato T, Yoshii T, Furuya T, Koda M, Takeuchi K, Matsunaga S, Seki S, Ishikawa Y,

Imagama S, Yamazaki M, Mori K, Kawasaki Y, Fujita K, Endo K, Sato K, Okawa A. Spine (Phila Pa 1976). 2017 Apr 1;42(7):E398-E403.

2.学会発表

Fall-related Deterioration of Subjective Symptoms in Patients with Cervical Myelopathy. Kimura A, Takeshita K, Shiraishi Y, Inoue H, Endo T, Okawa A. AAOS 2017 Annual Meeting, San Diego, CA

H. 知的財産権の出願・登録状況
（予定を含む）

1.特許取得

なし。

2.実用新案登録

なし。

3.その他

なし。